

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	関崎 哲
調査研究課題	プリンティング表現の教育・普及に関する研究					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	関崎 哲	デザイン学部造形デザイン学科准教授	版画、絵画		
	分担者					
調査研究実績の概要	<p><u>1 研究実績の概要</u></p> <p>「プリンティング表現の教育・普及に関する研究」というテーマの下、本年度は学内外の様々な機会を捉えのワークショップを実施した。これらのワークショップは、本研究の基本となる「実際に素材に触れながら思考を深め作品化するというプロセス」を重視するということを念頭に企画した。参加者対象者を“年齢層も所属も様々な人々”とし、身近な版素材を用いて凹版による表現を行うという内容の活動である。</p> <p>さらに、プリンティング表現の教育・普及を目指す具体的な活動として、総社市吉備路文化館において「版表現の楽しみⅡ」展を企画、開催した。展示内容は、実施したワークショップの内容の紹介とそこで制作した作品の展示、また、総社市の協力を得て市が所蔵する版画コレクション（森コレクション）の中から凹版技法を用いた作品を数点選び出し展示を構成した。</p> <p><u>2 「版表現の楽しみⅡ」展の概要</u></p> <p>・企画意図</p> <p>版表現への理解が進み、鑑賞する機会や制作してみようとする方が増えることを目指した企画。今回の「版表現の楽しみ展Ⅱ」は、銅版画を中心に凹版形式の作品について、制作する側・鑑賞する側双方の視点から楽しめるような内容とした。</p> <p>・展示内容（以下の3つのセクションで構成）</p> <p>① 倉敷市立美術館の初級版画講座受講生の作品、関崎研究室企画実施によるワークショップ参加者の作品、関崎研究室関連学生の作品（凹版による大型作品や、手軽に取り組めるドライポイントの作品など）展示。</p> <p>② 吉備路文化館が所有する「森コレクション」の中から、関連する作品をピックアップし展示。</p> <p>③ 様々な凹版とその刷り上がりサンプルを手にとって触れる状態で展示（関崎研究室提供）及び、基本的な知識や技法を凹版で表現することの楽しみを交えながら紹介していくパネル展示。</p> <p>・展示期間、場所</p> <p>平成29年2月11日（土）から4月9日（日）総社市吉備路文化館</p>					

<p>調査研究実績 の概要</p>	<p><u>3 実施したワークショップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県大キッズキャンパス（県大はんが工房）（小学生対象、ドライポイント）H28/8/19</li> <li>・ 保育ステップアップ講座（保育士幼稚園教諭ほか対象、ドライポイント）H28/10/29</li> <li>・ 倉敷市立美術館版画講座（一般対象、腐蝕銅版及びドライポイント）H28通年</li> <li>・ 保育内容造形表現（実習授業）保健福祉学部子ども学専攻2年生、ドライポイント）H28/11</li> <li>・ ほか、デザイン学部関崎研究室関連学生（腐蝕銅版及びドライポイント等）H28通年</li> </ul> <p><u>4 研究実績の総括</u></p> <p>実施したワークショップは、用いた素材や表現テーマの設定が適切であったようで、活動参加への対象の如何にかかわらず充実した活動となった。研究テーマの基本でもある「実際に素材に触れながら思考を深め作品化するというプロセス」を、参加者一人一人が楽しみながら経験することができていたようである。</p> <p>また、プリンティング表現の教育・普及を目指す具体的な活動として行った「版表現の楽しみ II」展は、ワークショップ成果を発表するためだけではなく、実際に版画制作を体験していない鑑賞者に向けても「素材に触れながら思考を深め作品化するというプロセス」を具体的にイメージしてもらえることを想定した展示物の構成とした。美術作品としての評価が定まっている「森コレクション」の中からの作品と一般の方の作品、そしてそれを仲立ちするように並べた凹版の実物と刷り上がりサンプルの展示は、プリンティング表現とその制作プロセスを、体験的に理解することができるものとして機能したと考えている。来場者の反応からも、企画意図が伝わったことが判断でき、教育・普及という観点からの、今後の研究を進めるべき方向が見えてきたと感じている。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>各ワークショップの記録 「版表現の楽しみ II」展展示記録</p>